Super Taikyu
JapaneseEnduranceRace

BRIDGESTONE ENEOS

MEDIA RELEASE

2026 年 8 月 10 日

Team Noah

マッハ車検 PMU RACING PADS PETRONAS Syntium GR Garage 熊本中央 G72 SUPER COOLING SYSTEM HOTEL AZ FŪGA AUTO STAFF Racing Parts Development SWC Freedom Engineering Innovation

地元の 5 時間レースを 4 名で走り抜き 8 位完走

Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、7 月 25～26 日にチームの地元サーキットであるオートポリス(大分県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第 5 戦「スーパー耐久レース in オートポリス」に 4 名のドライバーで参戦。猛暑の中行われた 5 時間耐久レースで、大きなトラブルなく 8 位で完走を果たし 4.5 ポイントを加算した。

今回は下垣和也が第 2 戦鈴鹿以来 3 戦ぶりに A ドライバーとして参戦し、エースの冨田自然(あるが)、大分県出身の森田真心(こころ)、福岡県在住の永原蒼翔(あおと)というレギュラーの 4 名で真夏の 5 時間レースに臨んだ。

今回は全 9 クラス計 43 台の車両がエントリー。GT4 規定車両を用い S 耐で最大の激戦区である ST-Z クラスには、国内外の GT4 マシン 5 車種計 10 台がエントリーした。公式予選は 25 日の午後に行われ、A ドライバー下垣と B ドライバー冨田の合算タイムでクラス 8 位総合 17 位となった。

オートポリスはチームにとって地元のサーキットであり、多くのチーム関係者、スタッフの家族や知人、さらにファンがピットウォークに詰めかけ、レース前のピットは賑やかになった。レースの入場者も 2 日間で 1 万 500 名を数えた。

決勝レースは 26 日、晴れ/ドライ、気温 29℃というコンディションの 11 時 4 分にスタートが切られた。今回スタートを担当したのは冨田で、スタート直後にスピンした車両ともう 1 台をかわし 6 位へ順位を上げると、7 周目に 5 位、21 周目の第 2 ヘアピンで 4 位へ順位を上げた。途中からドリンクが出ないトラブルもあったが、25 周目には今回優勝した車両にかわされ 5 位へ順位を落とした。しかしその順位を守って 39 周でピットイン。ここで S 耐 4 戦目の若い永原へ交代した。

永原は 8 位でコースへ戻ると、フォーミュラで走り慣れたコースではあるものの、フォーミュラとのマシン重量差や挙動、さらにはタイヤの使い方などを確認しながら慎重に周回。やや短めの 28 周を走り 67 周でピットイン。次のスティントは森田が担当することになった。森田は 7 位でコースへ戻った後 1 台にかわされ 8 位となったが、この順位を守って周回。残り 1 時間 15 分の時点まで引っ張り最後のピットインをし、ここでアンカーの下垣に交代した。

3 回目のピット作業でもメカニックたちの動きは迅速かつ正確でミスなくこなした。下垣がコースに出た時点で前後との差は開いており、暑い車内に耐えながらも A ドライバーの義務周回時間 75 分をステディに走りクラス 8 位、総合 12 位でチェッカー。4.5 ポイントを加算しシリーズ 9 位となった。

次の第 6 戦は、10 月 24～25 日に岡山国際サーキットにおいて 2 つのグループによる 3 時間レースとして開催予定。

下垣和也「とにかく暑かったのとドリンクが初っ端から壊れていて、それが一番堪えました。それでも最後まで何とか走ることができました。今回はタイヤの序盤と後半、燃料の多い時と軽い時のクルマの動きの違いなどあり、そんな時にどう運転すれば良いのかなど勉強になることもあったので、それは大きな収穫です。次の岡山は走り慣れているコースですしもっと上を狙います」

冨田自然「クールスーツなしで行きました。最初はペースも良く他のスープラに負けるかという気持ちで気合い入れて走りましたし、九州のチームとして意地を見せられたかなと思います。他のチームのスープラの走りを見てセッティングの違いなど分かりすごく勉強になりました。ウチのチームももう少しできることはあると思いますし、今回得たものを次につなげられるようにします」

森田真心「暑かったです。ペース自体は悪くはありませんでしたが、やはり今ひとつという感じでした。ドライバーがもっともっと成長しないといけないなと思いますし悔しい部分があります。(同じスープラの)8 号車や 885 号車と同じようなペースで走れましたが、追い抜かれた 338 号車と同じペースで走れなかったのは悔しいです。岡山ではもっと良い結果を求めて走ります」

永原蒼翔「ドリンクが壊れているとは聞いていて、最初に思い切り吸ったら出たので安心したのですが、その後は全く出ませんでした。自分の課題はトラフィック(渋滞)で、それをいかに早く確実にペースを落とさずに抜いていくかなのですが、今回はそこが勉強になったレースになりました。岡山と富士、あと 2 レースありますが、そういった部分をクリアにしながら頑張りたいと思います」